

経営理念	【保育目標】あふれる笑顔 ともだち大好き みどりっ子
	【経営目標】『子ども一人一人を大切に、保護者に信頼され、愛される保育所』をめざす
	<子ども像>○あいさつができる子ども ○あかるく元気な子ども ○思いやりのある子ども ○最後までやりぬく子ども ○友だちと協力しあう子ども <保育所像>○一人一人の子どもを大切にする保育所 ○基本的生活習慣を身につけ、しなやかでたくましい子どもが育つ保育所 ○夢を育み、子どもの笑顔が輝く保育所 ○保護者、地域から信頼される保育所 ○地域を理解し、保護者とともに子育てをする保育所 ○保小中高の連携を大切にしている保育所 <保育士像>○子どもとの信頼関係を大切にしている保育士 ○保護者によりそい、信頼関係を築く保育士 ○意欲を育む環境を考える保育士 ○チームワークを大切にしている保育士 ○豊かな人権感覚を身につけた保育士 ○専門性の向上に努める保育士

中期経営目標		短期経営目標 (評価項目)	自己評価		保育所関係者評価		改善策等
			達成状況	評価	考察	評価	
保育・教育活動の充実	○ 遊びの充実のための保育環境作り	① 子どもの育ちや興味関心に合った”やってみたい”気持ちを引きだす環境の工夫や再構成を行う	子どもの姿から今の発達や興味関心を探ることを意識し、安全性や子どもの動線にも配慮しながら環境を考えた。また、子どもがやってみたいと思える環境となるよう、物の配置や量、提示するタイミング、再構成に努めた。その結果として半数以上の子どもが設定した場や物を使って遊ぶ姿が見られた。	B	環境はいつも良く、職員の方々の皆さんの工夫を感じる。努力目標を持ち続け、更なる工夫改善を進めてほしい。	B	環境構成については、引き続き研究保育等を通して学んでいくと共に、保育者自身が環境に関心を持って行動することの大切さを改めて感じていることから、保育者の援助についても学びを深めて保育の充実を目指す。
		② 一人一人の子ども理解に努め、特性や発達、ねらいに適した援助の工夫を行う	保育を伝え合い、多くの目で子ども理解を深めるよう意識して取り組んだ。子ども一人一人の成長に目を向けながらその子に応じた言葉がけや援助を考え実践すると共に、対応職員が変わっても同じ援助となるよう職員間の共有にも努めた。その結果50～60%の子どもが生活や遊びへの意欲が向上した。	B	一人一人の発達段階に合わせた対応を継続して取り組んでほしい。	B	引き続き、様々な視点から子ども理解を深められるよう伝え合い、話し合うことに取り組む。また専門機関の助言も取り入れながら、一人一人の子どもの発達や状況に適した援助を考え実践していく。
		③ 食べることへの興味や関心につながる食育活動の工夫を行う	野菜の栽培を通して各年齢の発達に合った取り組み方や援助、言葉がけに努め生長を喜び合った。また給食調理員の協力のもと、収穫物を献立の中に入れてもらい、友達や保育者と一緒に味わう機会を作っていた。その結果60%以上の子どもが栽培物や食べることに関心を持った。	A	園庭の様子や報告写真からも、食育活動を意欲的に取り組んできたことが分かる。自己評価の高さからも、取り組みが子どもたちの食への興味や関心につながったことを感じた。	A	園内で意欲的に食育活動に取り組むことで、家庭への啓発につながったと感じるか、次年度は家庭に伝える機会がより増えるような工夫に取り組み、保育所と家庭が共に食育について考えられるよう目指す。
職員の育成・資質向上や運営	○ 共通課題に向かう職員の協力体制づくり	① 子どもの発達段階についての学びを深めながら、興味関心や時期に応じた遊びの教材研究を行う	今年度は[水遊び]を通して、各年齢の子どもの姿と環境構成や援助を伝え合い発達段階についての学びを深めた。また、寒天や片栗粉等で感触を楽しめる教材研究にも職員全員で取り組んだ。その結果、職員一人一人が教材についてより考えるようになり、職員間でも教材の話で以前よりすようになった。	B	園全体で教材研究に取り組んだことや、水に視点を置いてそれぞれの発達段階について学んだことは保育に活かされていると感じる。	A	今年度の成果をいかして、次年度も一つの遊びを通した1～5の発達段階についての学びの場や、教材研究の機会を組織的に計画し、職員全体の資質向上に取り組む。
		② 地域の特性や防災についての知識情報を職員全体で共有しながら避難訓練や防災対策に取り組む	津波注意報や南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)の発表もあり、より危機感を持って訓練や防災対策に取り組んだ。また保護者と共に災害について考える機会作りにも努めた。その結果、職員一人一人の意識が高まり、自分の考えを伝え合うことで話し合いも深まり、実践や課題改善につながっている。	A	タワーに避難した後の準備等、更なる努力をお願いしたい。また、小学校等多くの人の中での避難訓練にも取り組んでほしい。	A	次年度は、園児数や職員数が減る予定である。その中で園児の安全を守る避難訓練の在り方や防災マニュアルの見直しに組織的に取り組んでいかなければならない。また、タワーに避難後のマニュアル作りや準備物等も整えていきたい。
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域等共に子どもの成長を支え、信頼される保育所づくり	① 子どもの育ちの姿や保育者が大事にしていることの保育説明を、保護者の安心につながるように工夫して行う	子ども一人一人の成長の過程を丁寧に伝えた。またクラス便り、ドキュメント、園便り、家庭支援便り、看護師便り、給食便り等、様々な視点から保育の取り組みや大事にしていることをタイムリーに知らせる工夫を行った。その結果60%以上の保護者が家での様子や成長の喜びを伝えてくれるようになった。	B	ICTの活用も含めて、これからも様々な取組を行ない保育説明を続けてほしい。	B	言葉や文字だけでなく写真を見ることで、より保育説明が伝わりやすくなることから、引き続きそれぞれの発信を行いながら写真を使って工夫していくことに取り組む。
		② 保護者の思いを受けとめながら、子育ての楽しさや喜びを感じてもらえるように支援を行う	保護者と話ができる機会を大切に、話しやすい雰囲気作りを心がけた。また必要に応じて話を聞く機会を設け、保護者の悩みを受けとめられるようにチームで取り組んだ。その結果保育所評価アンケートでは話や相談しやすいと感じる保護者86%、ややそう思う保護者12%となり前年度より高くなった。	B	保護者アンケートの結果からも、日々の取り組みの積み重ねを感じる。継続して保護者支援に取り組んでほしい。	A	保護者からの話や気になったことは、様々な視点から考えて保護者理解に努め、保護者の気持ちに寄り添った支援を探り、チームで取り組んでいく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要